

# Mamiya Gallery

MCC 60周年記念第1号



Photo/佐々木加奈子

## 60周年記念 MCCフォトコンテスト入賞作品



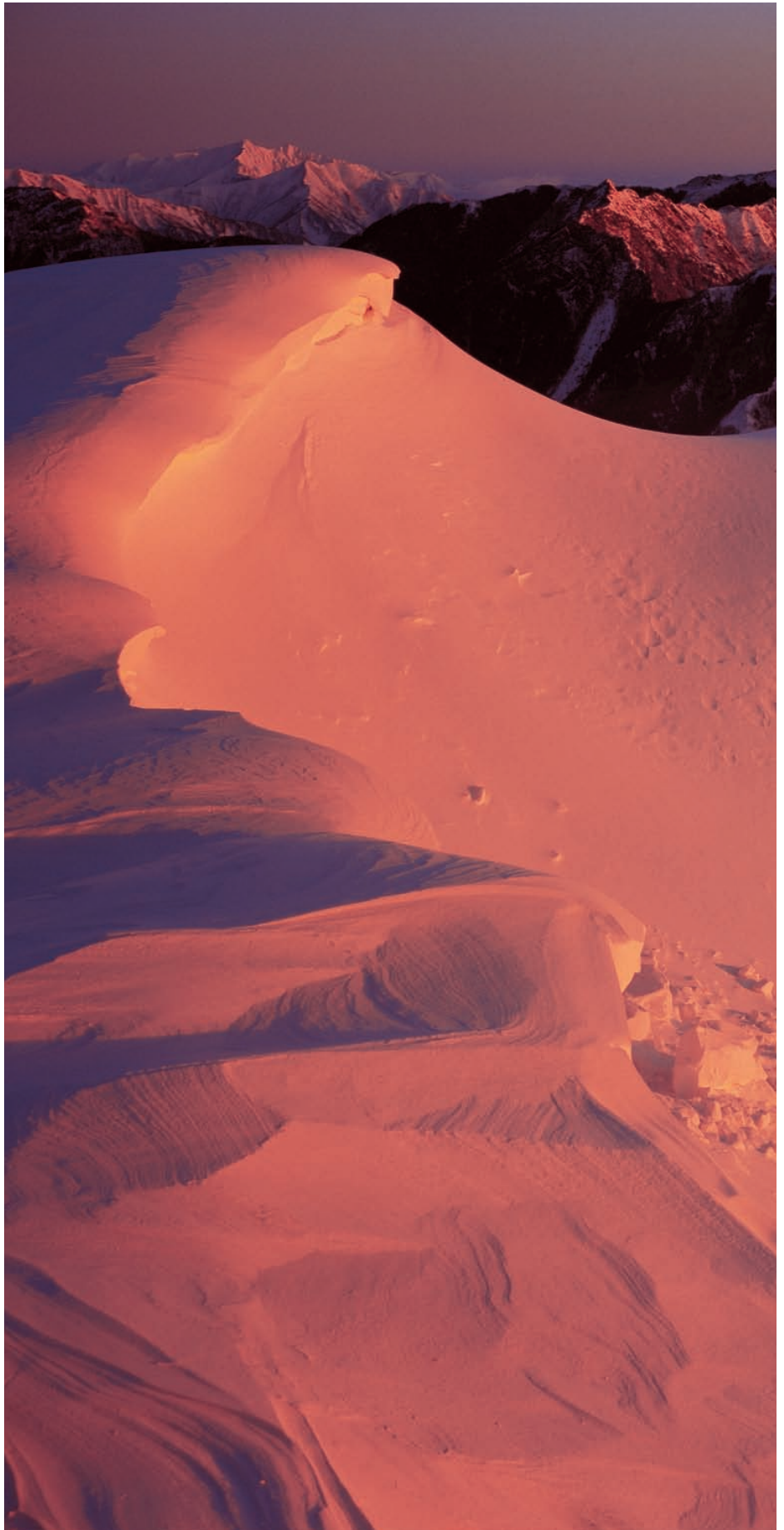
### 総評

今回の第19回MCCフォトコンテストは、マミヤカメラクラブ創設60年の節目の年にあたりました。

記念の回ということで、いつもより多くの方々から、ご応募を頂きましたが、何れも厳選された作品ばかりで優劣付け難く、選考には嬉しい苦勞をしました。どの作品からも撮影を楽しまれている姿が目に見え、全国津々浦々で様々な写真ライフが営まれていることの素晴らしさを改めて実感した次第です。

どうぞこれからも、マミヤカメラの魅力を活かして撮影をお楽しみください。末筆ですが皆様のご健康とマミヤカメラクラブの末長いご発展をお祈りいたします。

日本写真家協会会員 原 弘男



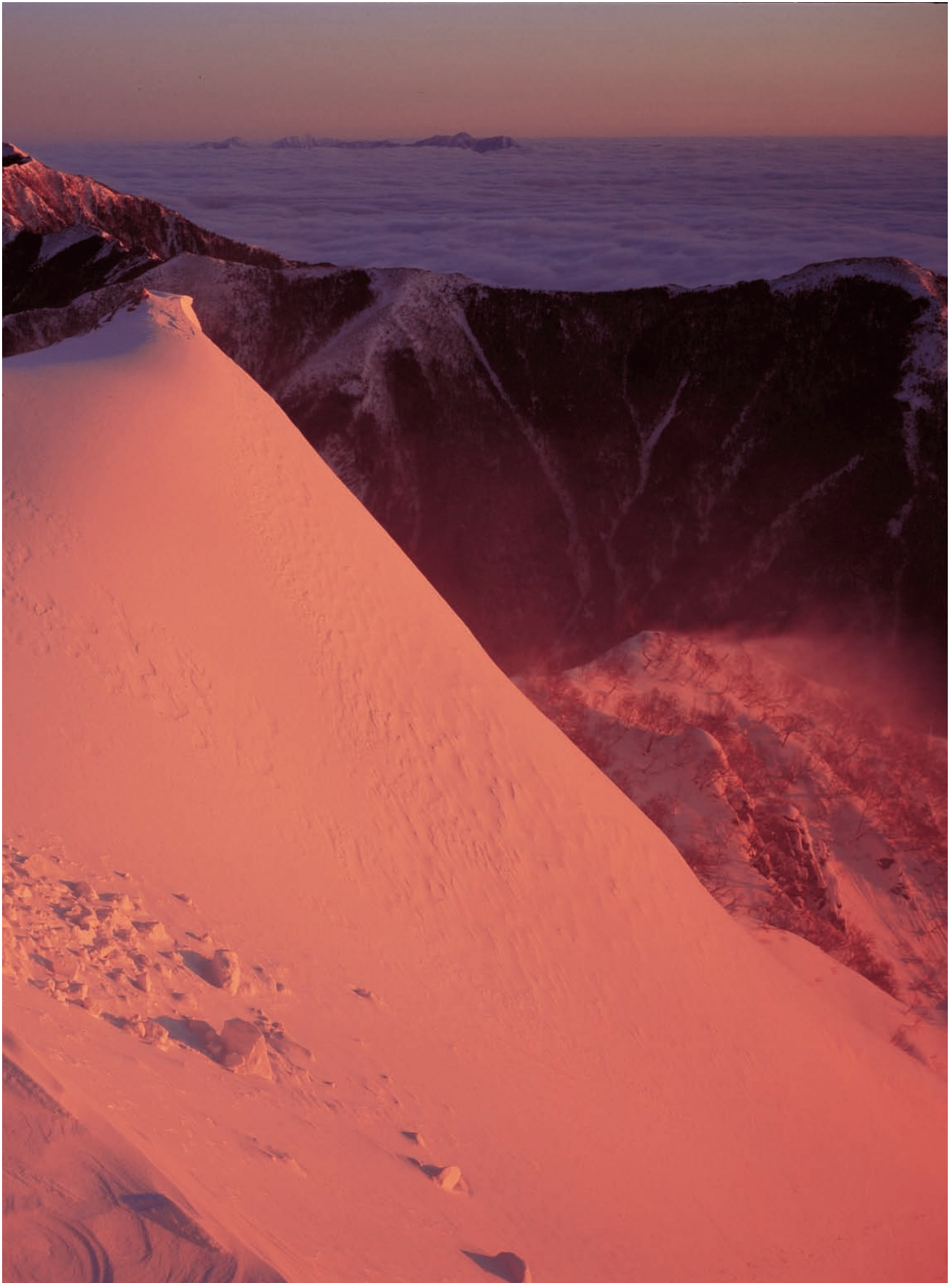
### 金 賞

#### 『紅雪庇』

小田 薫(東京)

マミヤ7Ⅱの魅力が遺憾なく発揮された作品です。遠くの雲海に浮かぶ山、樹林帯を舞う雪煙、崩れた雪庇など様々な自然の営みがドラマチックな演出効果を添えています。

マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f16 オート ヘルビア100 SL



銀 賞

『雪の竹林』 太田 秀男(長野) 4ページ上

雪を被った竹の姿がまるで迫ってくる動物の群れのようにも見えて、ちょっと怖いような迫力を感じました。柔らかい光と最適な露出で質感描写が特に優れています。

マミヤ7II N80mmF4L f8 オート ヘルビア50



銀 賞

『春の淡雪』 飯塚 光男(東京)

この春は花が咲いてから、たびたび雪が降りましたが、そのタイミングを逃さず撮影した努力の成果です。シャッタースピードの設定が的確で降る雪がほどよく表現されています。

RZ67プロII APO Z350mmF5.6 f8 1/125秒 ヘルビア50

銀 賞

『初秋の花』 行川 征子(埼玉) 4ページ下

しっかりとした構図で、立山の初秋の一コマをイメージ豊かに表現している点を評価しました。チングルマがキラキラと輝いて見える光線の妙がこの作品の魅力です。

645AFD AF55-105mmF4.5 f13 オート -0.3EV補正 フォルティアSP





銅賞

『新緑』 中田 友一(栃木)

柳の新緑が緑のシャワーのように見えて木の強い生命力を感じます。空の青さと白い雲とが調和して独特の世界が醸しだされ、シンプルながら味わい深い作品になりました。

RZ67プロ Z50mmF4.5W f5.6 1/125秒 ベルビア100



銅賞

『冬の湖』 戸塚 勇(埼玉)

岩に付いた氷がクラゲのように見える面白い景色です。自然の演出を捉えた観察力の賜物でした。もっと近寄って撮るとデフォーメ効果でいっそう不思議さが増したことでしょう。

645AFD AF35mmF3.5 f22 1/30秒 ベルビア100



## 銅賞

## 『朝霧に咲くあけぼのツツジ』 土岐 勝義(福岡)

霧に包まれた幽玄の世界が淡い色彩でしっとりと表現されています。霧の情景は単調になりやすいところですが、右に配置した木などで適度な遠近感を出している点に構成の上手さを感じます。

645AFD AF80mmF2.8 f22 1/15秒 ヘルビア100



## 銅賞

## 『森の宝石』 鈴木 洋一(新潟)

自然の造形の不思議さと楽しさがいっぱい、まるで童話の世界を見ているようです。質感を表現するためにもう少し絞って被写界深度を深くした方が尚良くなった事でしょう。

645AFD AF35mmF3.5 f8 2秒 ヘルビア100



コダック賞  
『湖岸の風』 林 かつひろ(京都)

柳はもとより雲の効果で強風が見事に表現されています。せつかくのシチュエーションなので、もう少し空が焼けたらもっとドラマチックになったであろうと残念に思います。

マミヤ7II N65mmF4L f16 オート E100VS



入 選  
『縛られの樹』 松井 謙吾(神奈川)

広角レンズのデフォルメ効果を活かしてこの珍しい樹の特徴をうまく捉えています。痛々しいような樹の質感と鬱蒼とした森の深さがしっかりと技術で表現されています。

645AFD AF35mmF3.5 f22 4秒 ベルビア100 PL



入 選  
『水草の景』 井川 クキ子(東京)

狙いを湖面だけに絞ったことで成功しています。ピントが隅々まで合っているのは被写界深度の計算が正確だったからでしょう。もう一つ何かアクセントになるものがあるとさらに良くなったと思います。

645AFD AF105-210mmF4.5 f32 1/3秒 ベルビア50



## 入 選

## 『早春賦』 生瀬 弘(奈良)

水中木の姿から自然の営みの力強さを感じます。フレーミングはベストですが、光線状態など何かもう一つこの自然の力を盛り上げる要素があったら良かったと思います。

645AFD AF105-210mmF4.5 f32 2秒 ヘルビア100

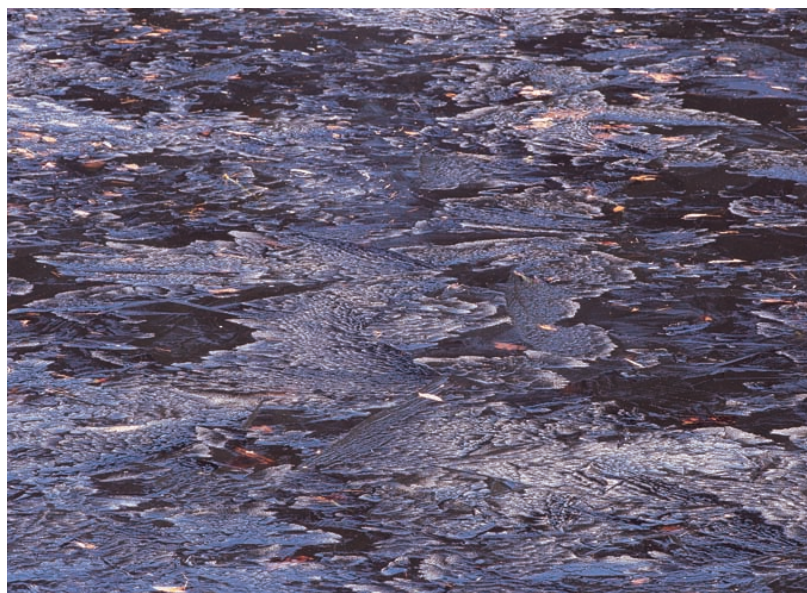


## 入 選

## 『凍結模様』 川野 豊彦(広島)

赤や黄色の落ち葉がアクセントになって画面に彩りを添えています。氷の描く模様が、顕微鏡写真のように繊細で造形的にも面白く撮影の楽しさが目に浮かびます。

645プロTL ULD C300mmF5.6N f22 オート  
ヘルビア100 LBB-4



## 入 選

## 『春の岩山』 亀岡 勇(千葉)

まるで墨絵のようなしっとりとした味わいの作品です。辛夷の花が遅い北国の春を象徴してよい雰囲気をかもし出しています。曇り日には空の分量を少なくすると画面が締まって見えますので少しアングルを下げてほしいと思います。

マミヤM645 C80mmF2.8 f16 1/8秒 ヘルビア100





入 選

『暁田春待』 岩澤 延恭(神奈川)

朝焼けの棚田をローキーな表現で印象的に捉えています。大きく引伸ばすにはこのくらい黒が締まっている方が良くも知れませんが、応募の四つ切だと少し暗い印象になっています。

RB67プロSD C100-200mmF5.2W f8 1秒 ヘルビア100F

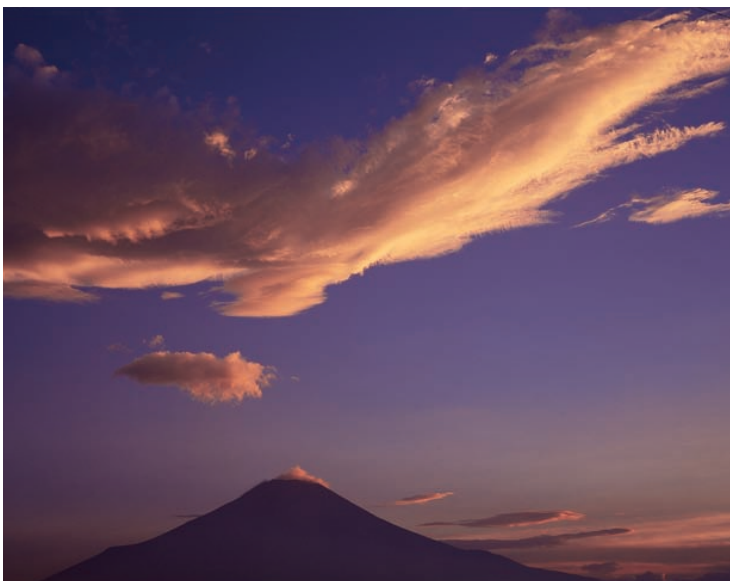


入 選

『天空の楽園』 山崎 泰(栃木)

雲を主体にした構図で遠近感がよく出ています。さらにもう一つ雲の動きや光の強弱などで、ダイナミックな要素が加わるとスケールの大きな山岳写真になると思います。

RB67プロSD KL180mmF4.5L-A f32 1/2秒 E100VS PL



入 選

『吊し雲』 前田 吉之助(東京)

吊るし雲の形が少し崩れているのが残念です。雲は刻々と姿を変えるのでシャッターチャンスは気が抜けませんが、それが又富士山撮影の楽しみではないかと思えます。

マミヤプレス23 100mmF3.5 f16 1/60秒 ヘルビア UV

## 入 選

## 『蒼い夜明け』 佐藤 進(東京)

夜明けのブルーがいい雰囲気を出しています。画面左半分の立ち枯れの木と差し込んだ光の反射が魅力的なので、そこを中心に構成するとよりフォトジェニックな表現になるでしょう。

645プロ C55-110mmF4.5N f11 オート-1/3EV補正  
プロビア400X



## 入 選

## 『緑流』 大橋 茂夫(奈良)

カメラアングルが良いので新緑がひととき鮮やかに映り込んでいます。緑の分量が多いせいかやや平面的に見えるので、手前や左右の岸などを入れると立体感が出てくるかも知れません。

645AFDII AF105-210mmF4.5 f22 8秒 E100VS C-PL

## 入 選

## 『湖畔の朝』 星野 勝彦(群馬)

静かな湖畔の朝のイメージはよく表現されていますが、ちょっとおとなしすぎる感があります。たとえば、釣り人の動きを捉えて動と静を対比して見せるのも一つの方法かもしれません。

RB67プロS C50mmF5.2 f22 1/2秒 ヘルビア100 SL



## 入 選

## 『湯川の厳冬期』 西出 敬一(東京)

MCフィルターで青を強調しているので氷の冷たさが表現されています。ただ、天候と時間によってはデーライトフィルムのままでも青く写り、氷のデリケートな質感描写には優れています。

645プロTL C35mmF3.5N f16 オート E100VS MC80A





入 選

『静寂』 荒川 信利(埼玉)

森の小さな湖のひっそりとした佇まいが伝わってきます。全体を入れずに映り込みの部分だけで表現してみるのも一つの手です。その方が、作者が思い描いた静かなイメージに近いかもしれません。

マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f8 1/8秒 E100VS



入 選

『紅に染まる』 丸山 俊男(東京)

色づき始めた木々が朝日に染まって一段と赤みを増し、本来は避けるべきフレアもここでは一役買っています。許容範囲ですが、わずかにカメラブレがあるのが残念です。

マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f22 オート E100VS SL



入 選

『冬晴れ』 縣 信元(東京)

水に映った穂高の姿が小波に揺れて油絵のようなタッチになり、しかも、唐松の落ち葉や川原と一体化して見えるのが不思議で面白いです。川をカットして上下を逆にさせるのも一案です。

645プロTL C105-210mmF4.5 f22 オート ベルビア100F



入 選

『星の軌跡』 多田 弘(静岡)

橋杭岩と星との露出のバランスに苦労された事とあります。ライトアップの状況もありますが岩がシルエットになり星がもう少し明るく写ると理想的ではないでしょうか。

マミヤ7 N80mmF4L f8 45分 プロビア400X



## 入 選

## 『光芒』 山本 貴一(新潟)

この棚田も年々景色が変わってきていると思いますが、風景撮影も一期一会です。里山の貴重な記録として撮り続けて欲しいと思います。定点観測も一つの手法ではないでしょうか。

645AFD AF105-210mmF4.5 f16 1/45秒 フォルティア



## 入 選

## 『谷の雪模様』 川又 正卓(東京)

大きな足跡はウサギでしょうか?ほかにたくさんあつていろいろ想像を巡らすと楽しいですね。木を入れずに光と影の雪模様だけでまとめてもイメージがより膨らんでくると思います。

C330プロフェッショナル 180mmF4.5 f22 1/30秒 アステリア F



## 入 選

## 『新緑の頃』 浦上 景一(東京)

時期も構図も申し分ないのですが定番の撮影ポイントだけに点が辛くなりました。カメラアングルの工夫や自然現象の演出などで独自の『竜頭の滝』にトライして下さい。

マミヤ7II N150mmF4.5L f22 オート ベルビア100 UV



## 入 選

## 『希望』 櫻木 進(神奈川)

空を広く入れたフレーミングに新鮮さを覚えますが、この景色にはやはり朝焼けや夕焼けがお似合いだと思います。ちなみに、こうした構図では望遠レンズより広角レンズの方が効果的です。

RB67プロSD KL250mmF4.5L-A f22 オート ベルビア50 PL

## MCC柵池2009秋撮影会

### コンテスト入賞作品

#### 撮影指導・作品選 花畑 日尚

この秋は紅葉が早く、最盛期が過ぎてしまっていたのが少し残念でしたが、まだまだ綺麗な木々が残っていて何とか撮影できたので安心しました。初日は雨も降りましたが、翌朝の劇的な変化には感動しました。夜明け前の暗がりの中から日の出を待ちつつ撮影したのも楽しいものでした。虹が出たり光がさしたりと、自然相手の撮影の醍醐味が味わえたのではないのでしょうか。そのような状況下での撮影でしたので審査も楽しませていただきました。ただ、毎回言っているのですがピントを合わせる位置があいまいで中途半端な作品が多く見られました。また、遠景のみのところで必要以上に絞りすぎた結果ブレた写真になっていたりということも多く見られたので、被写界深度とシャッタースピードの兼ね合いをもう少し考えて撮影してみてください。入選しなかった写真の中でもすばらしいものが沢山あったのですが、その理由で落選したものが数多くありました。私としても残念なので次回から頑張ってくださいと思います。

写真家 花畑 日尚



#### 金賞 『映ろう池塘』 井川 クキ子(東京)

ピントがシャープで露出も申し分なく、写真としての狙いがきっちりとされていて素晴らしい作品に仕上がっています。小さな池塘ですが、広角でうまくまとめ、風のない瞬間を待ってタイミングよく撮影されました。思い切って上部を切り詰めたところが良く、オオシラビソの2本の投影が画面を引き締めています。季節感もよく出ています。

645AFD AF55-110mmF4.5 f22 1/8秒 ベルビア50



#### 銀賞 『雨あがり』 飯塚 光男(東京)

手前をシルエットにしている露出の決め方が良かったです。空に露出を合わせて雲の輝いた瞬間を見事にとらえています。この時は山に眼が行きがちな場面ではありましたが、周囲の様子も良く観察し臨機応変に対応できています。最後まで金賞と争いました。

RZ67プロII APO Z250mmF4.5 f45 1/8秒 ベルビア50



#### JTB賞 『木道』

入江 貞義(愛媛)

光と影のコントラストがいいですね。大胆に木道を入れているのでその影が効いています。少しゴーストが出ていますが直接太陽が入ってはいないので、少し移動するかハレ切りをすれば防げたかもしれません。後ろの山荘の入り方が気になるころではあります。その2点がなければさらに上位に入選したかも知れません。

645プロ C55-110mmF4.5N f22 1/15秒 E100VS UV

#### 銀賞 『つかのまの光』 荒川 信利(埼玉)

朝の瞬間、スポットのような光の決定的瞬間をよく押さえています。光が差した短時間の間にこれだけのものを撮れたのはしっかりと腕があるということです。ただ多少空の入れ方が中途半端な感じがするのが金賞との差を分けました。

マミヤ7II N150mmF4.5L f8 オート-0.3EV補正 E100VS



銅賞 『秋色』 浦上 景一(東京)

曇天下での撮影ですがダケカンバの幹の白さを活かした露出がよく、構図の切り取りかたが絶妙です。ダケカンバの木の配置など安定した構図に好感がもてます。他の作品を見ましてもしっかりとした構図のつくれる方だと思います。

マミヤ7II N150mmF4.5L f22 オート ヘルビア100 UV



銅賞 『錦繡』 佐久間 弘(東京)

一見何でもないような所で、難しい被写体をよくものにしてます。手前のオレンジの楓の葉が画面に彩りを与え、奥の山との対比を成しています。また山の部分の露出がオーバーと感じさせないように楓が中和しています。雰囲気があり、見れば見るほど味わいのある作品です。

RB67プロSD KL250mmF4.5L-A f22 1/10秒 プロビア400X



入選 『晩秋の白樺』 瀬谷 金雄(茨城)

空の青をうまく生かした露出が良かったです。空に露出を合わせると樺がシルエットになってしまうところですが、よく調子をだしています。樺を大胆に入れている構図が良いのですが、その木が山の稜線で両断されているのが残念です。樺を生かすなら下を切るか、下の草も面白いのでそちらを生かして多く入れるなど、主題をはっきりさせるとさらに良くなると思います。

マミヤ7II N43mmF4.5L f22 オート ヘルビア100



入選 『秋模様』 林 孝雄(東京)

ダケカンバを中心として素直にまとめて撮影されています。水の反射がポイントになっているのですが、位置が下すぎるので、少しカメラを下に向けるなど、もう少し画面の中心より入れたほうが良くなると思います。また、ボジを見たところ、応募されたプリントがあまり良くなかったので損をしている印象です。ラポにもう少し注文を出して良くしてもらったほうが良いでしょう。

マミヤ7II N150mmF4.5L f22 オート ヘルビア50



入選 『秋彩』 飯島 精三(埼玉)

一瞬の光だったので慌ててしまった事もあるのですが、構図的に陰影のバランスが崩れているような気がします。滝のあたりから下のみでまとめた方が印象が強まるのではないのでしょうか。手前の露出と色、撮影のタイミングも良いだけに惜しい作品でした。

RB67プロSD KL180mmF4.5L-A f22 4秒 ヘルビア50 UV



入選 『秋色』 古関 良一(東京)

ふと通り過ぎてしまいがちな風景を撮影された狙いが良かったです。ナナカマドの赤と緑、カンバの黄色を中心まとめているのに好感がもてます。惜しむらくは若干のブレがあるので、大きなフィルムサイズのカメラで望遠レンズを使用する場合は、レンズ側もしっかりと固定したほうが良いでしょう。

645AFD AF APO300mmF4.5IF f16 1/20秒 ヘルビア100

## Warlking in the Jungle 佐々木 加奈子(ささき かなこ)

2006年に初めてバルト三国のラトビアを訪れた。

1904年に日露戦争勃発の鍵となったロシア軍がバルト海のリオパヤから日本へ通り攻めた地で、“ジャングルを歩く”というシリーズは始まった。極寒の海辺に浮かぶ要塞が目飛び込んできた外はマイナス10度。道案内のアドレスは小さい頃よくここで遊んだという。普通12月の真冬の時期には来ないらしいのだが。。私は持参した夏ドレスに着替え、献花のため海岸へ向かった。寒さに叫ぶ私を見守る横にアドレスがシャッターを押す、史実にマーキングした事にする。(表紙)

電車での永遠の別れ。(鉄道博物館で目にした木製の電車)

永遠の別れの瞬間にならなければ、人間はドラマチックにはならない、今の人々の肖像。永遠というコンセプトは現代社会ではなかなか味わえなくなってしまった。けど、自分はそう気づく前に、電車に向かって大きく手を振ることが相手の心へつながる事と信じている。(Departure)

時間。この煙がきつと、あの時居た地と、今の瞬間を結んでくれる。歴史はこうやって出来上がっていくのだろうか？ この遠い地で思う事。(Time escape)

その場に立って見ないと湧いて来ない感情や事実を信じて私は 忘れかけている物を探しに日本を簡単に離れてしまう。ヨーロッパは私の過去をも呼び起こす土地、以前呼んだアンネの日記の事実を確認し、彼女を思う。そんな私と共にいるのはマミヤ7II。人々と出会う時、心が動き形なる時、マミヤ7IIは忠実に相手の空気を読みながら控えめにシャッターがきれる。

オート設定でシンプルに撮れるから更に私は被写体の物語りに浸れます。

全ての人々に大きな意味があり、その生き方に等身大で居る人々への尊敬の意味を込めて私は写真を撮る事になる。言葉や生き方が違くとも、見えない糸で私達は繋がっているから。



佐々木 加奈子

(ささき かなこ)

1976年仙台生まれ。

2001年米国イサカ大学ジャーナリズム学科卒業、04年米国スクール・オブ・ビジュアルアーツ大学院写真映像学科修了、06年に文化庁新進芸術家海外留学制度で英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート大学院へ留学。近年の展覧会に、個展『ウキヨ』(Gardian Garden, 東京, 08年)、グループ展『ニューヨークフォトフェスティバル Portature』(アメリカ, 08年)、『風景ルルル』(静岡県立美術館, 08年)、『戦争と芸術』(京都造形大学ギャルリ・オーヴ, 09年)など。



Departure

マミヤ7II/N80mmF4L

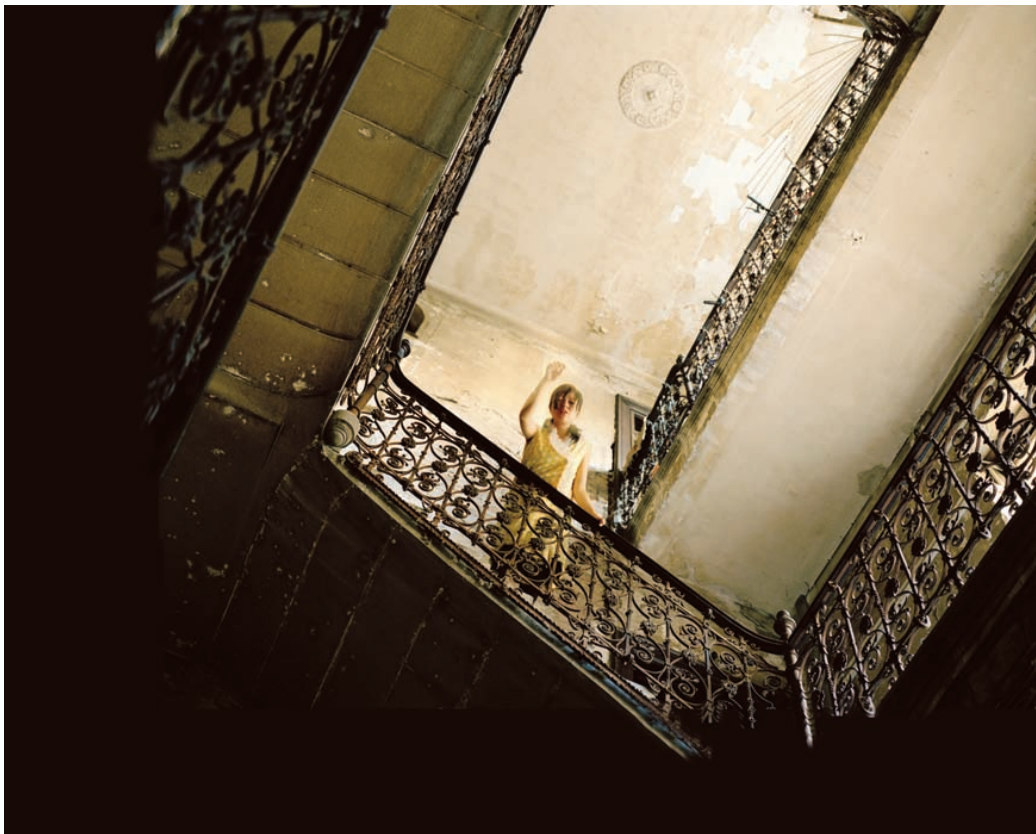
表紙 Site of Russian Armies departure to attack Japan 103 years ago





Time escape

マミヤ7II/N80mmF4L



The depth

マミヤ7II/N80mmF4L

# マミヤカメラクラブ60周年記念イベントレポート

## マミヤスクエアカメラ撮影会後記

講師 山崎 正路

第1回 2月6日(土)日比谷公園

第2回 2月13日(土)日本カメラ財団ビル

マミヤカメラクラブ創設60周年を記念したイベント、スクエアカメラ撮影会。デジタルカメラにもスクエアのフォーマットが導入されるなど、今一度魅力が見直される今、かつてマミヤが発売したスクエアカメラに限定しての撮影会を開催しました。

第1回は日比谷公園での撮影会。晴れたり曇ったりの激しい光線状況の変化に、皆さん露出に苦戦されているようでした。太陽が出れば暖かい日だったのですが、まだ2月。曇るたびに寒さが襲ってきて早く太陽が出て欲しいと願うばかり。二眼レフカメラのCシリーズでの参加者が多かったのですが、蛇腹のマミヤシックスを使われている方も居る意味新鮮でした。

第2回はJCIIにて山崎先生の講評会が行われ、みなさん撮影会での写真をプリントしてお持ちいただきました。驚いたのはマミヤシックスの意外な描写力。60年前のカメラとは思えないシャープな写真に仕上がっていました。スクエア写真での空間の使い方や、フレーミングのコツなどを山崎先生に講義していただき、皆さん改めてスクエアカメラの楽しさを実感していただけました。



撮影カメラ:マミヤC330mmプロフェッショナルf

## 秦先生撮影会

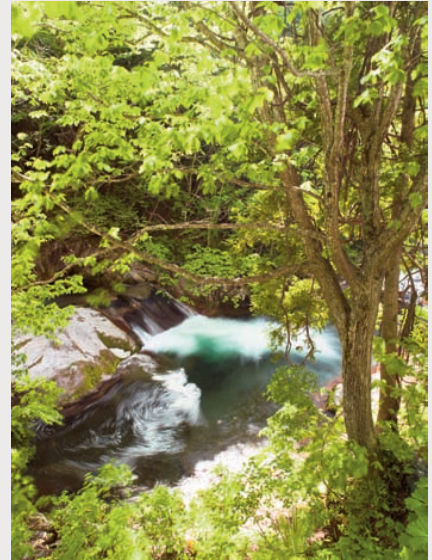
講師 秦 達夫

- 第1回 3月2日(火)稲村ヶ崎夕景撮影会  
 第2回 4月23日(金)新宿御苑撮影会  
 第3回 6月11日(金)照葉峡日帰りバス撮影会  
 講評会 6月25日(金)東京都文化会館

稲村ヶ崎での撮影会まで、ずっと天気予報を気にする毎日。数日前からの予報は雨になったり曇りになったり。結局当日はどんよりとしたお天気だったのでした。夕景を撮影する予定だったので急遽変更し、江ノ電に乗り移動して御霊神社での撮影から始まりました。降らないで、と願ったのもむなしく、やはり小雨が降りだしました。日が暮れた後は浜まで降りて、江ノ島の夜景を撮影。灯台がくるくるまわり、海面に写る姿は幻想的でした。

新宿御苑での撮影会も、小雨混じりの中での開催でした。しかし雨のおかげで八重桜が咲き乱れる新宿御苑も人が少なく、花や幹も水滴で濡れて撮影には好条件。花びらの上の水滴が光ってキラキラ。晴れていればこんなにゆっくり撮影は出来なかったと思うと、恵みの雨でした。目が覚めるような強いピンクの皞月も咲き、霧雨降る中ではありましたがカメラ日和な一日でした。

最後は照葉峡への日帰りバスツアー。朝から太陽が照りつけ、暑くなりそうな天気。予想通り、目的地へ到着したお昼過ぎには暑さはピークに。バスで溪流を遡ったところから撮影がスタート。緩やかな坂道を降りながら撮影していきます。いくつもある滝を各々の撮影ポイントから撮影。唯一水の近くへ降りられる場所は気温がやはり違うように感じました。最終地点までのペース配分が難しく、最後はバタバタしてしまいましたが溪流を楽しんだ撮影会になりました。



照葉峡

撮影:秦 達夫

## マミヤ7Ⅱ 上達写真教室後記

講師 山崎 正路

- 第1回 4月9日(金)武蔵野の桜・菜の花を撮る  
 第2回 5月14日(金)小湊鉄道撮影会  
 第3回 6月18日(金)江戸四宿 品川宿撮影  
 講評会 7月9日(金)スポットセミナールーム

恒例になってきたマミヤ7Ⅱの写真教室、今回は全3回のシリーズで行いました。第1回の撮影は西武園駅から出発。「となりのトトロ」の七国山のモデルになったという八国山緑地を抜け、西武線沿いに電車を撮影。線路沿いに菜の花が咲いていて、なんともほのぼのとした風景でした。北山公園では桜が咲いていて、山崎先生からのアドバイスもはさみつつ、春の季節を楽しみました。

第2回は小湊鉄道。五井駅で売っているお弁当と一日フリー切符を買ってからの乗車です。切符は車掌さんが次の駅までの間に一人一人確認に来られ、時刻表とにらめっこしながら乗り降りしている内に顔を覚えられて確認もされなくなりました(笑)。最初は雨模様だったお天気も、終点の上総中野に付く頃には太陽が照りつけ、もう夏かと思うほど。上総中野駅ではいすみ鉄道のムーミン車両と並んで撮影。一日中鉄道を満喫しました。

最後の撮影会は品川宿。身近な場所なのに、案外知らない北品川を歩いてきました。道幅は昔のままで少し狭く、たくさんの寺や神社がありました。その中で、品川神社にある富士塚に登ることに。関西出身の私にとって、富士山信仰があることは知識では知っていたのですが、富士塚を見たのも登ったのもこれが初めてでした。品川宿にちなんで、商店街のシャッターは殆どに東海道五十三次が描かれていました。

そのあとも小さいお寺を周って、3駅分歩いたあたりで雨がぼつぼつ。品川宿の始まりから終わりまでを歩いた撮影会でした。



小湊鉄道

撮影:野村

レポート:野村佳世

マミヤではこれまでに多くのカメラを製造してきました。  
マミヤ光機製作所として1940年にマミヤシックスが販売されて今年創立70年と言う事もあり、マミヤカメラの愛好者でスクエアカメラ講習会を開催しました。今回はその講習会を誌面で再現してみます。

### マミヤのスクエアカメラ①②

スクエアカメラとは正方形のフィルムフォーマットのカメラでスクエアのフィルムカメラは今でも作家やマニア、若い女性にも人気がありフィルムカメラの良さを再確認できるカメラです。

折りたたみ式プリングカメラマミヤシックス、1948年マミヤフレックスジュニアから始まる二眼レフカメラ、1957年レンズ交換可能なCシリーズ、異色の35mmスクエア判マミヤスケッチ、1989年距離計連動式カメラニューマミヤシックスなどをお持ちのマミヤカメラファンにお集まりいただき撮影、講義と2日間講習会を開きました。

カメラのタイプが変わると携帯性やカメラアングル、縦横比が変わるので出来る上がる写真も違ってきます。デジタルカメラでもAPS-Cサイズ、35mmフルサイズ、フォーサーズ、コンパクトデジカメそしてデジタルカメラバッグといったようにタイプも縦横比も様々です。

フィルムカメラでも中判なら6×4.5cm判、6×6cm判、6×7cm判、6×8cm判、6×9cm判とフォーマットがあり一眼レフ、二眼レフ、レンジファインダー、スプリングカメラなどがありますので目的に合わせたチョイスをするとういでしょう。

現在のマミヤでは一眼レフタイプの645AFDⅢ、RZ67プロⅡDとレンジファインダーのマミヤ7Ⅱがあります。645AFDⅢ、RZ67プロⅡDはそれぞれ6×4.5cm判と6×7cm判ですが、デジタルバッグを取り付ける事ができるのでフォーマットを選べます。

マミヤ7Ⅱは6×7cm判の純粋なフィルムカメラです。

### マミヤ7Ⅱをトリミングしてスクエア写真に

今はマミヤではスクエアカメラの販売はしていませんが、スクエア写真を作る事はできます。前号のマミヤ7Ⅱの回でも書きましたが、マミヤ7Ⅱを縦位置で構え、被写体に対し真直ぐに傾けずに撮影します。余ってしまう下部はトリミングをする事を前提でスクエアにすると被写体にパースがつかずにアオリのフォール撮影を作った事と同じ効果が得られます。

正方形のフォーマットにしっかりと縦のライン、横のラインを出した見栄えの良いスクエア写真を作る事ができます。

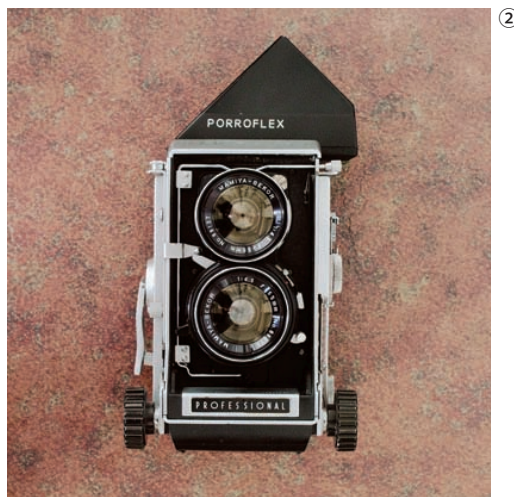
### 2眼レフのピントグラス③

フルネルレンズのついていない時代の暗箱のピントグラスや古いカメラのウエストレベルカメラのピントグラスの見え方は、アイレベルカメラのファインダーと違い少しざらざらでもりガラスの様にぼやっています。ファインダーは絞り解放状態で見ている事でより美しく見えたりします。はっきりきっちりとは見えないのですが、ノスタルジックな柔らかい良さがあります。当然オートフォーカスではないのでピント合わせが必要です。ミラーによる反転状態は画面構成や被写体を追いつながら写すことはかなり難しいので、画面構成はピントとフレームを決めたら、一度透視ファインダーを使い垂直線をまずセンターで合わせて実像を見て考え構成し、その後ピントグラスで再確認します。

### モノクロフィルムで撮ってみる④

古いカメラではフィルムの選択が重要です。モノクロフィルムではコントラストを必要とする場合、反対色のフィルターを付ける事でコントラスト強くする事ができます。風景などでは白い雲と青い空を明確にするY色のフィルター、ポートレート用では女性の赤い唇を強調する黄緑色のフィルターが流行した時もありました。また古い時代のレンズはシャープさが少ないものが多くコントラストも弱いのでフィルターも必要でした。

現像時にコントラストを上げて荒い画像にする方法や、営業写真館のように多めの露出を与えて現像時間を短縮する事で細かさ的追求するなどの独自の現像方法もありました。モノクロはフィルムの選択や現像方法を自分流に見つける事が決めてです。



④



⑤



### カラーネガで自分の調子を見つける

階調を残すにはポジフィルムよりラチチュードの広いネガの方が優れています。軟調な写真を作るにはネガカラーの選択が良いでしょう。プリントなら明るくオーバー目に仕上げる事もできます。画質や正確にと言うよりほんわかムードを望む場合にも都合が良い選択です。古いカメラの欠点を補う意味でもネガフィルムは有効です。

### ポジのコントラストとシャープ感

ポジフィルムは撮影時に正確な露出で撮る事が求められます。ネガよりラチチュードがせまいためです。講習会や、印刷原稿では本来の色に近い再現性があるので都合の良いフィルムです。

古いレンズシャッターは高速でも 1/300 秒、古くなると高速はあまり正確とは言えずスローシャッターは粘りが出て安定性を欠き、分解掃除をして調整することになります。古くなくても修理ができるのも機械式カメラのよいところです。正確な露出にはシャッター傾向を覚えて絞りで調整が実用的で正確です。

半世紀も前のレンズの性能が現在のものと比べて良い訳はありません。古いレンズはレンズ構成が単純で、コーティングも無い物も多く逆光には弱い傾向にあります。くもりやカビ、レンズのふきキズなどマイナス面も多くあります。この事をレンズの味とすれば、ソフトフォーカスレンズのようににじみとして使う事もできます。⑤⑥

### パソコン修正で自由なプリント制作

プリントを目的とするのが写真です。モノクロ写真は家庭暗室でも楽しめますが、カラープリントは温度管理など難しいのでデジタル化してパソコンでプリントすると自由度が広がります。スキャニングでデータ化する事で色のズレやコントラストをコントロール出来るようになります。

### デザイン的な仕上げのプリント⑦⑧⑨

A4やA3の比率のペーパーにあって良くスクエアの写真を配置する。目的を明確に紙の余白を無駄と考えずに、ホワイトスペースを活かします。データ化してパソコンで余白に文字などを入れてかって良く仕上げます。フィルムの外枠や文字を入れるなどパソコンからのプリントは自由に表現ができます。

### アスペクト比(縦横比)の考え方

印刷の目的で考えると写真は本や中刷り広告、ポスターなど比率優先の写真になります。写真全体を活かす場合縦長横長ははじめから決まっています。

ノートリングでの作品作りの場合好きな対角のカメラを選択すれば良いのですが、2対3はほぼ万能な対角です。3対4は縦位置で人物や山岳写真に都合の良い対角です。ハイビジョン9対16は横長で広い風景に都合がよくヨーロッパの古い絵画にはかなり横長の風景画がいっぱいあります。絵画では作品の対角は画家が決めるので規格以外にも様々なアスペクト比が存在します。

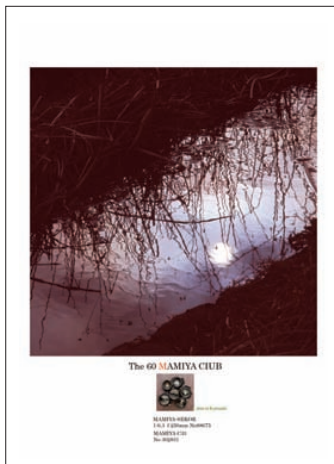
スクエアはどうでしょう。プリントするなら長方形の用紙に対し一段下のサイズになり不経済ですが作品的には魅力的です。真四角な画面はそれだけで作品になります。四角い画面ならではの周辺四隅落ちは目線を中心に導く効果があります。水平垂直を取る事で画面づくりが安定して落ち着きが出せます。トリミングではなく四角のなかの画面構成で縦長や横長の流れを意識して作る事がコツです。

フィルムカメラは一瞬を捉えると言う緊張感やフィルムならではの質感があります。また機械式のため修理も可能なものが多く50年以上の前のカメラでも楽しむ事もできます。フィルムカメラには写真の基本があり、デジタルとは違う表現もできるのです。

⑥



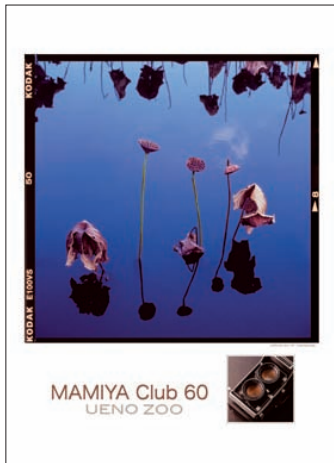
⑦



⑧



⑨



# 望遠レンズの手持ち撮影をもっとやってみよう



「タンポチェ(3867mからのアマダブラム(6856m)朝光」(ネパールヒマラヤ)

山で望遠レンズというと、三脚!絞込み!スローシャッター!という連想が生まれ、次は重い三脚!極限までの絞込み!スローシャッターなら何秒でも——というように大げさに広がってしまうのが大方の傾向のようです。でもそれはいけない!!

これではマミヤカメラやレンズの高性能に常にブレーキをかけながら動かしているということになりかねないのです。

作例をごらん下さい。カメラはマミヤ645AFD、レンズはAF ULD210ミリF4、AE、AF。手持ちでデータは画面表示のように、絞りF4(つまり開放) シャッター速度は1/350秒。これでブレなく中遠景にある旗の列(タルチョ)から遠景の山まで充分必要な被写界深度に入っている。(PLフィルターはなし、但しフィルム感度は2倍増感、つまりISO100を200にしている。コダックE100G)

これがカメラ・レンズの実力を生かした成果です。

ふつう携行性がよく考えられたカメラはグリップについてやハンドリングなど、手持ち撮影向きに便利のように人間工学的に各操作部分がレイアウトされているものです。マミヤもRBもRZもマミ

ヤ7IIもこの645AFDもデジタルのZDもそうです。だからもっと手持ちの使い勝手を追求すべきなのです。

しかし望遠レンズは長大なレンズになると確かにカメラブレしやすい。でもレンズの焦点距離ミリ逆数のシャッタースピードならまず手持ち大丈夫という実用上の実績がある。これをもっとポジティブに活用することである。

つまりシャッターはなるべく速いほうがよい。そのためにレンズの絞りを開放に近くセットしたり、フィルム感度を上げて対処するなど最大の努力を試みる(もしZDのデジタルなら必要コマ分だけ感度を上げることができる)この作例の撮影に私は別に“秘術”を使ったわけではありません。カメラやレンズの性能、以前からある1/4000秒までのAE連動のシャッターの正確さ、などの実績を信頼して、ごく常識的な活用法を効果的に行っただけです。

いささか当然にすぎますが、<sup>1</sup>百聞は一見にしかず、といえます。三脚の立て場のない山の中でも自在なアングルの撮影をアクティブに考えて望遠手持ち撮影をもっと試してみたいはかがですか?

## マミヤカメラクラブ撮影会案内

### 中央アルプス 千畳敷撮影会

2010年10月1日(金)～2日(土)

講師：秦達夫先生

宿泊：ホテル千畳敷

標高2612mのホテル千畳敷に宿泊。眼前に迫る千畳敷カールは一度は撮影したい被写体です。

## マミヤカメラクラブ創立60周年MCCフォトコンテスト入賞作品展

マミヤカメラクラブの創立60周年を記念した  
MCCフォトコンテストの入賞作品展を開催します。

日程2010年10月21日(木)～10月27日(水)

場所：アイテムフォトギャラリー「シリウス」

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-4-10 アイテム本社ビル 2F

TEL：03(3350)1211 FAX：03(3350)1240



東京メトロ丸の内線「新宿御苑前」駅下車

1：新宿方面出口 徒歩2分

2：大木戸門方面出口 徒歩1分

3：新宿一丁目方面出口 徒歩2分(エレベーターあり)



## Photo Community Galleryがスタートします。

みんなのフォトギャラリーサイト

**Photo Community Gallery**

マミヤカメラクラブ、コダックフォトクラブ、ハッセルブラッドクラブ合同の画像投稿サイトがスタートします。皆さんの好きな画像を無料でインターネットのギャラリーとして公開ができます。フォトコンテストなどの企画も盛りだくさん。是非アクセスしてください。

<http://photocom.jp/>

## MCC ORIGINAL GEAR (下記の商品につきましては、現金販売のみとさせていただきます)

### MCC 3D雲台 ●なめらかな操作の小型3WAY雲台

中判カメラから大判カメラまで対応できる頑丈な小型雲台です。可動部の摺り合わせ面の平面性を極限まで高めており、適度な滑らかさとトルクが得られます。

- ・大型カメラの重量に耐える頑丈さ
- ・スムーズな操作性
- ・レバー式でかさばらない
- ・ブレーキレバーのストップ位置はワンタッチ変更可能

素材 アルミ削りだし

高さ 120mm

重さ 800g

カメラ取り付け部 60×80mm

三脚取り付け部 φ80mm

会員特別価格 94,500円(税抜価格 90,000円)

オプション：ネームプレート名入れ 3,000円



※訂正

マミヤギャラリーVol.17、12ページの屋久島撮影会フォトコンテストにおきまして、入選者のお名前が伊藤良雄様になっておりますが伊藤好雄様の誤りでした。ここにお詫びして訂正いたします。

# MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

## マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ…、  
学ぶ…、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。

撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別幹旋などの特典があります。

入会金：1,050円(消費税込み)

会費：4,200円(消費税込み) 2年会費

手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

### クラブ員特典

- クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布  
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 修理代金の割引  
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- マミヤカメラクラブメール  
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- マミヤオリジナルグッズの特別幹旋販売  
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み・お問合せは

### マミヤカメラクラブ事務局

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目2-2 ココタイラビル 5F  
TEL.03-6748-1988



### マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファックスでも承ります。

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目2-2 ココタイラビル1F  
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991

東京サービスセンター TEL 03-6748-1983 営業時間 9:00~17:50  
土、日、祝日は休業

## マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。

### 東京サービスセンター

1F TEL 03-6748-1983 営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

#### マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター：〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目  
TEL 011-221-8507 FAX 011-232-3344  
東北地区 M C プロテック：〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202  
TEL 022-297-3846 FAX 022-256-1808  
東海地区 山田テクニカルサービス：〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99  
TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。

《マミヤホームページ》 <http://www.mamiya.co.jp>

この会報誌は最高級のアート印刷技術 HBP-700 を使用しています。